

那覇市文化芸術基本計画中間見直し（案）

令和8年3月

那覇市

1. 文化芸術基本計画の中間見直しに取り組む背景

那覇市では、第5次那覇市総合計画（2018（平成30）年度～2027（令和9）年度）に掲げる「次世代の未来を拓き、豊かな学びと文化が薫る誇りあるまち NAHA」の実現に向けて、2020（令和2）年に那覇市文化芸術基本条例を定めました。さらに条例の基本理念を実現することを目的として、那覇市文化芸術基本計画を2020（令和2）年度から2029（令和11）年度までの10年間を計画期間として策定し、様々な文化芸術施策に取り組んでいます。

基本計画策定から5年経過後の2026（令和7）年度は、中間見直しの年にあたります。策定時の2020（令和2）年度は新型コロナウイルス感染症が世界的な流行を始めた年でした。また、翌年の2021（令和3）年10月31日には那覇市の新たな文化芸術創造発信拠点施設として那覇文化芸術劇場なは一とが久茂地小学校跡地に開館し、コロナ禍の困難を経て、現在では日々多彩な文化芸術事業が市民を中心として営まれるようになっていっています。

計画策定以降、文化芸術に関する国の動向や関連法令にも変化が生じています。また、コロナ禍を経て、社会情勢や本市の市民生活を取り巻く環境についても、新たな視点が生じており、文化芸術を巡る状況や市民の期待も多様化が進んでいます。

こうした現状を踏まえ、本計画が掲げる基本的な方向性を継承しつつ、現状との整合性を確認し、より実効的な施策の推進を図るため、本計画の中間見直しを行うものとします。

2. 文化芸術に関する国の動向や関連法令

（1）文化芸術推進基本計画（第2期）（2023（令和5）年3月24日閣議決定）

国においては、文化芸術基本法に基づき、2023（令和5）年3月に「文化芸術推進基本計画（第2期）」を閣議決定し、2023（令和5）年度から2027（令和9）年度までの5年間を対象に、文化芸術政策を総合的かつ計画的に推進することとしています。本計画では、文化芸術が有する本質的価値に加え、社会的・経済的価値を創出し、その成果を文化芸術の継承・発展に再投資する「文化と経済の好循環」の実現が重視されています。新型コロナウイルス感染症による影響やデジタル化、人口減少、国際環境の変化等を踏まえ、文化芸術活動の基盤強化、人材育成、文化観光や国際展開の推進、地域における文化芸術の持続可能な推進体制の構築などを重点的に進めることとしています。

（2）障害者による文化芸術活動の推進に関する法律（2018（平成30）年法律第47号）

2018（平成30）年に制定された「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」は、「文化芸術基本法」と「障害者基本法」の理念に基づき、障害者による文化芸術活動の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進することで、障害者の個性と能力の発揮及び社会参加を促進させることを目的としています。

(3) 文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光の推進に関する法律(2020(令和2)年法律第18号)

2020(令和2)年に施行された「文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光の推進に関する法律」(文化観光振興法)は、文化振興と観光振興、地域活性化を連携し、経済効果を文化振興に再投資する好循環を目指すものです。文化施設が地域の観光事業者と連携し、文化資源の魅力を紹介するとともに、多言語対応、キャッシュレス整備など施設機能を強化し、地域全体で文化観光を推進し、地域活性化を図るとされています。

3. 市民アンケート調査(「那覇市の文化芸術に関するアンケート」)の結果から

中間見直しに向けて、計画策定以降初めての「那覇市の文化芸術に関するアンケート」を実施しました。

【アンケート実施概要】

期間：2025(令和7)年7月25日～8月15日(22日間)

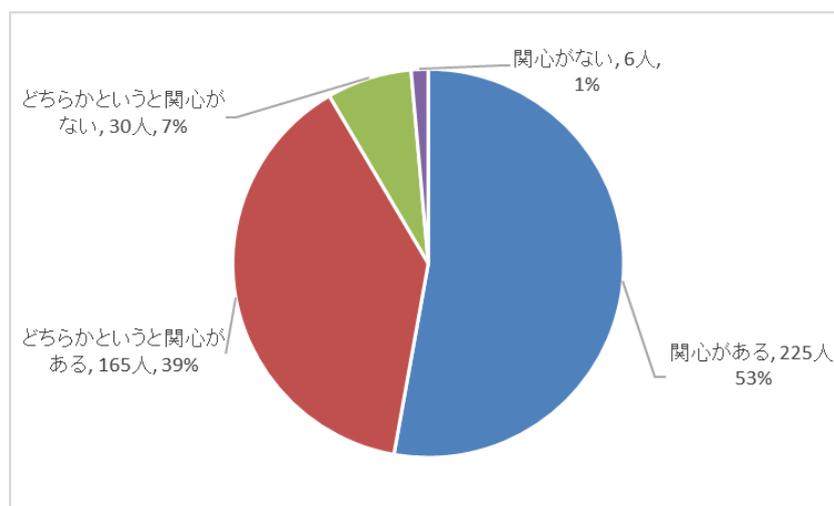
方法：①市ホームページ・SNSよりWEB回答フォームへ誘導

②アンケート用紙を市役所本庁舎・各支所に設置

回収件数：426件

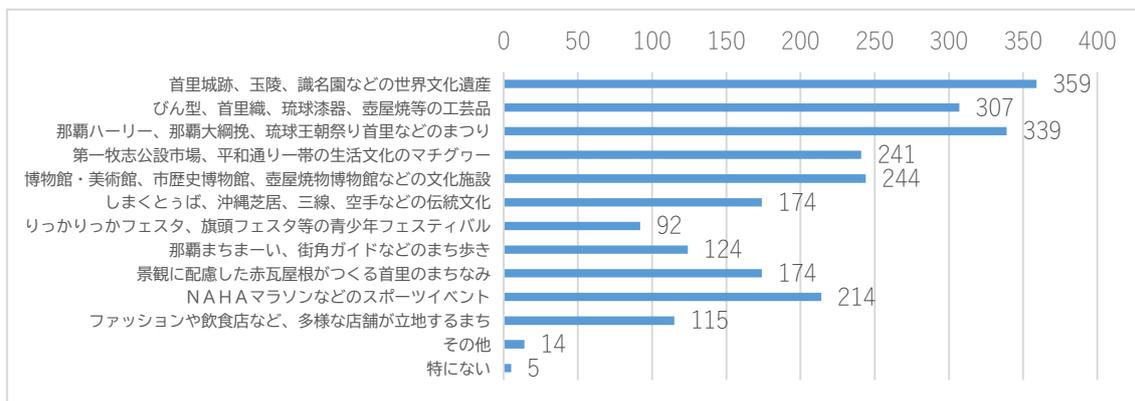
回答者の92%が文化的活動に興味を持っている(関心がある+どちらかというに関心がある)と回答しており、市民は文化芸術活動に高い関心を持っているとすることができる結果となりました。

【文化的体験や活動への関心】



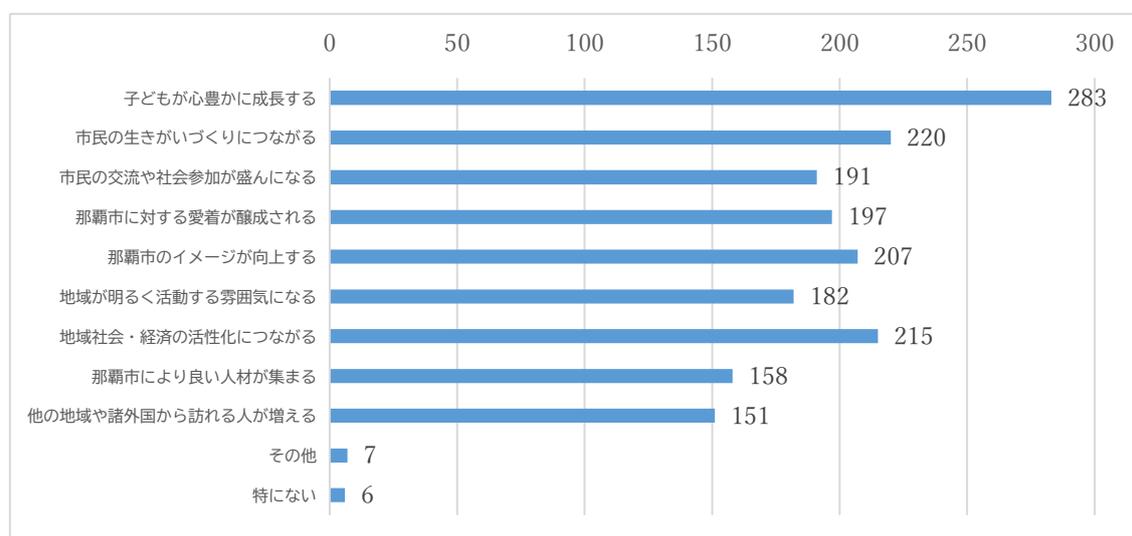
「まちの魅力につながる文化資源」を問う項目では、首里城などの世界文化遺産や祭り、マチグラーや市内の文化施設が多く挙げられています。これは「歴史と地域性を基盤としながら、新たな創造や発信がなされるまち」である本市のユニークな文化的魅力への支持であると考えられます。

【まちの魅力につながる文化資源】



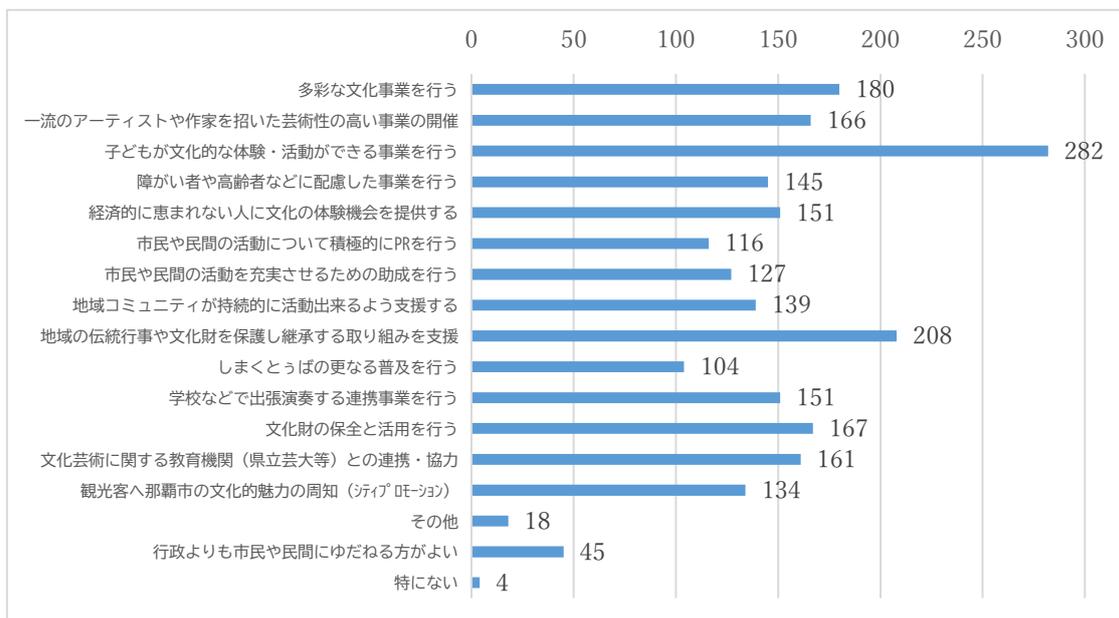
文化芸術に期待する効果を問う項目では、「子どもが心豊かに成長する」「市民の生きがいになる」「地域社会・経済の活性化」「那覇市のイメージ向上」が多く、文化芸術活動の充実が次世代の成長と地域全体の生活の質の向上につながることを期待されています。

【那覇市の文化的環境が充実した際期待する効果】



行政が行うとよいと思うこととしては、「子どもが文化的な体験・活動ができる事業を行う」「地域の伝統を保護し、次世代に継承する」「多彩な文化事業を行う」が多く、行政が事業を実施し、本市の文化的な魅力を地域の発展につなげていくことが期待されています。

【文化的なまちであるため行政が行うとよいこと】



4. 中間見直しの視点

文化芸術を取り巻く政策動向の変化と市民アンケートの結果を踏まえ、限られた資源の中で効果的に施策を推進できるよう、以下の「中間見直しの視点」に基づき、文化芸術基本計画に必要な見直しを行います。

（1）「誰一人取り残さない」地域社会のために社会包摂的な文化芸術を推進する

文化芸術は、年齢、障がいの有無、国籍、社会的背景などにかかわらず、すべての人が享受し、参加することのできる公共的な営みです。本市においても、子ども、高齢者、障がいのある人、外国人市民、経済的・社会的に不利な状況にある人など、多様な立場の市民が文化芸術に触れ、表現し、つながる機会を確保することが重要となっています。こうした考えのもと、鑑賞環境や参加手法の工夫、関係分野との連携を通じて、文化芸術を社会包摂の視点からさらに推進し、誰一人取り残さない地域社会の形成に寄与することを目指します。

（2）文化芸術の継承・発展と地域振興のために観光とのさらなる連携に取り組む

文化芸術は、本市の歴史や地域性、暮らしの中で培われてきた多様な文化資源と結びつき、まちの魅力を形づくる重要な要素です。観光においても、文化芸術は来訪者に那覇らしさを伝え、理解や共感を深める役割を果たしています。こうした特性を踏まえ、文化施設や文化事業、伝統文化と観光の連携をさらに進め、文化芸術の価値が市民生活や地域の持続的な発展につながるような取組みを推進することが求められています。本市を取り巻く状況においても、「第2次那覇市観光基本計画」とりわけ「那覇市都市型 MICE 振興戦略」において、

那覇文化芸術劇場なはーとを中心とした都市機能の集積を生かし、経済振興の視点とまちづくりの視点の双方から、文化・歴史の継承発展を目指すまちの姿が示されています。さらに、「GW 2050 PROJECTS」のグランドデザインの中では、観光産業との連携において伝統文化がさらなる発展の期待される分野と位置付けられています。これらの関連計画との整合を図りながら、文化芸術と観光が補完し合う関係を構築することで、本市の魅力の発信と文化芸術の継承・発展を図ります。

5. 基本計画で中間見直しを行う項目

今回の中間見直しでは、上記に基づき、基本計画「第4章 基本的施策と主な取組」のうち、次の2ページについて見直しを行います。

(那覇市文化芸術基本計画 43 ページ)

3 文化芸術を生かしたまちづくり

■基本的施策

- (1) 文化芸術の持つ社会包摂機能を生かした取組を推進します
- (2) 観光・産業等と文化芸術の連携を図ります
- (3) 亜熱帯の風土を生かしたまちづくりを推進します

3-(1) 文化芸術の持つ社会包摂機能を生かした取組を推進します

■施策概要

文化芸術は、子どもから高齢者まで、障がいのある方や在留外国人など誰もが社会参加の機会をひらく社会的基盤となり得るものであり、昨今、そのような社会包摂(P5注釈参照)の機能が注目されています。

社会的課題の解決に資する文化芸術の持つ社会包摂機能の向上を図るため、教育、福祉などと連携・協力する環境づくりを推進します。

■主な取組

ア 教育や福祉との文化芸術を通じた連携

文化芸術と教育分野及び福祉分野が関わる既存施策については、文化芸術がもつ「社会包摂機能」の観点から再評価し、芸術家や実演家などの専門家や既に支援活動を行っている団体との連携のあり方、部署間の施策連携などの取組を検討します。



ジュニアジャズオーケストラで子どもの居場所づくり
(琉球フィルハーモニック主催)

イ 「那覇文化芸術劇場なはーと」における社会包摂機能を生かした取組

「那覇文化芸術劇場なはーと」の基本方針では、地域のつながりの醸成や孤立しがちな人々の社会参加の基盤となる交流事業展開を目指すことを役割の一つと定めています。「那覇文化芸術劇場なはーと」において、文化芸術のもつ社会包摂機能を生かした取組を進めます。



見直し

イ 那覇文化芸術劇場なはーとにおける社会包摂機能を生かした取組と展開

那覇文化芸術劇場なはーとの基本方針では、地域のつながりの醸成や孤立しがちな人々の社会参加の基盤となる交流事業展開を目指すことを役割の一つと定めています。

那覇文化芸術劇場なは一とを、市民が文化芸術を通じて出会い、学び合い、つながる拠点として位置づけ、子どもから高齢者、障がいのある人、外国人市民など、多様な立場の人々が参加しやすい事業の充実を図ります。鑑賞や参加のしやすさに配慮した環境整備や、表現活動への関わり方の工夫を進めるとともに、福祉、教育、地域活動等の関係分野と連携し、文化芸術の持つ社会包摂機能を生かした取組を進め、社会包摂的な文化芸術活動の普及を図ります。

これにより、市民一人ひとりが文化芸術を身近に感じ、地域社会への参加や相互理解につながる場の形成を目指します。

見直しの概要

本市では、社会的課題の解決に資する文化芸術の持つ社会包摂機能の向上を図るため、教育、福祉などと連携・協力する環境づくりを推進しており、特に那覇文化芸術劇場なは一とでは社会包摂機能を生かした取組を進めることとしています。計画策定時は、なは一と開館前であり、劇場の社会包摂的な役割が抽象的な記述となっていました。現在までのなは一との事業を踏まえ、今後の事業の方向性を示しながら、国の文化芸術推進基本計画が掲げる文化芸術の社会的価値や、障害者による文化芸術活動推進法の趣旨、市民アンケート結果にあらわれた子どもの成長や地域社会の生きがいにつながるという視点を盛り込んで見直しを行いました。また、なは一とが発信する社会包摂性を広く社会や民間にも波及させることを目指して、項目を「那覇文化芸術劇場なは一とにおける社会包摂機能を生かした取組と展開」と見直しました。

(那覇市文化芸術基本計画 43~44 ページ)

3-(2) 観光・産業等と文化芸術の連携を図ります

■施策概要

観光やものづくりなどの産業と文化芸術がもつ潜在力との有機的な連携による波及効果を生み出し、地域活性化に資する環境づくりを進めます。

■主な取組

ア 伝統工芸品の多面的振興

市内では、壺屋焼、首里織、琉球びんがた、琉球漆器、三線等の琉球王国時代から受け継ぐ伝統工芸品が生産されています。伝統工芸品は文化資源としての側面と、ものづくり・地場産業としての側面があり、文化資源の面では、消費者嗜好や価値の多様化から再び文化資源として再評価される時代を迎えつつあります。

那覇市では、那覇市伝統工芸館を拠点に伝統工芸品の展示、体験、販売事業を展開し、伝統文化の継承・発展と伝統工芸産業の振興の両面から支援を行っています。今後の展開については、産業振興施策との連携(情報発信、技術力、商品開発、企画・デザイン等)、文化資源の継承・発展の面からは各伝統工芸産地組合や国、県、沖縄県立芸術大学等の専門機関や作家、クリエイター、企業等との連携を図り、文化的側面と産業的側面の両方向からの産地形成に向けた環境整備を進めます。



尺首里花倉織



琉球舞踊衣装



朱漆牡丹唐草箔絵食籠



土紋花器



手捻り土灰掛け玉のり大獅子

イ 観光産業と文化芸術の連携

基幹産業である観光産業と文化芸術資源との連携では、近年、琉球芸能を活用したプロモーション事業が活発化しています。また、映画、音楽など、地域の歴史と文化に根ざすコンテンツビジネスは可能性の高い分野と言われています。

市内では行政や民間企業による観光客向けの夜のエンターテインメントショー(エイサーや獅子舞、三線などの伝統芸能)など、ノンバーバル(非言語コミュニケーション)公演を鑑賞する機会も創出されてきました。

観光産業と文化芸術の連携については、重要な課題となっているプロデュースやマネージメントなど、文化芸術の担う専門的な人材の確保を含め、那覇文化芸術劇場なはーとを中心に、新たな環境整備を図ります。



創作エイサーはノンバーバルのエンターテインメントショーとして国内外で活躍
(提供：Neo Ryukyu)



見直し

イ 観光産業と文化芸術の連携

本市の歴史や地域性に根ざした文化芸術や伝統文化は、那覇の魅力を形づくる重要な基盤であり、観光においても来訪者に那覇らしさを伝え、理解や共感を深める役割を果たしています。

こうした特性を踏まえ、那覇文化芸術劇場なはーとをはじめとする文化施設を中心として、観光分野との連携を進めるとともに、民間事業者や関係団体との協働を通じて、地域における文化芸術活動と基幹産業である観光産業の好循環に向けて、発信機会の充実を図ります。あわせて、市民の文化活動や地域に根ざした取組が、まちの魅力として共有・発信される環境づくりを推進します。

さらに、「第2次那覇市観光基本計画」とりわけ「那覇市都市型 MICE 振興戦略」が掲げる文化・歴史の継承発展を通じた経済振興とまちづくりの視点との連携を図り、「GW 2050 PROJECTS」が掲げる将来像や方向性も見据えながら、重要な課題となっている文化芸術と観光をつなぐプロデュースやマネージメントなど専門的な担い手の育成や、文化芸術を支える人材の裾野拡大など基盤強化を進めます。合わせて地域のアーティストや住民、エンタメ産業等と協力して地域の文化芸術資源を活用した事業を展開し、文化芸術を次世代へ繋ぐために本市への誘客促進、文化観光等による地域経済の活性化を推進します。

これらを通じて、文化芸術の継承・発展・人材育成と地域の魅力向上が相互に支え合う、持続可能な文化芸術と観光の連携を図り、一層の文化芸術の発展を目指します。

見直しの概要

計画策定時は、なは一と開館前であり、コロナ禍でもあったために、文化芸術と観光の連携のあり方について先行きが不透明でした。現在のなは一とや本市を取り巻く状況を踏まえ、また、文化庁の文化芸術推進基本計画における「文化と経済の好循環」や、文化観光振興法における「文化振興と地域活性化の連携により、経済効果を文化振興に再投資する好循環」、さらに市民アンケートにおける「文化芸術活動の充実が次世代の成長と地域全体の生活の質の向上につながることを期待する」という視点に配慮した上で、「第2次那覇市観光基本計画」及び「GW 2050 PROJECTS」が掲げる将来像を踏まえ、人材育成、基盤整備、文化の継承・発展と観光が相互に支え合うことで、持続可能な文化と観光の連携を目指していくという視点を取り入れました。

以上